



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	県営住宅袋井団地B棟	BEE	1	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4	/5				ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.5	/5				ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5				ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5				がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要			内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。						
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)			得点		3.4	
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①外壁面の断熱、サッシの断熱性を高め住宅性能表示で等級4相当 ②共用部分(廊下)は全て開放廊下で昼光率が高い ③躯体(RC造)の耐久性を上げるため、品質、かぶりに考慮し、配管用の地下ピットを設ける ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥空地率80%以上で風通りをよくする ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦外壁面の断熱、サッシの断熱性を高め住宅性能表示で等級4相当 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型の衛生機器を使用 ⑫木材は県産材を使用 ⑬躯体と仕上材が容易に分類できるよう、置き床、GL工法を採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮隣棟間隔指標Rw0.5以上	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
			3.2	3.2.1	③	昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
			2.2.2	2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
		2.2.3	2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
		2.2.4	2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
		2.2.5	2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
		2.2.6	2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
		2			⑧	自然エネルギー利用
		3			⑨	設備システムの高効率化
		4	4.1		⑩	モニタリング
			4.2		⑩	運用管理体制
	LR-2	1	1.1		⑪	節水
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
		2	2.1	2.1.1	⑫	材料使用量の削減
				2.1.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用
				2.1.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
				2.1.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
				2.1.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材
				2.1.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
		3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
			3.2	3.2.1	⑬	消火剤
				3.2.2	⑬	断熱材
				3.2.3	⑬	冷媒
	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮
		2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)			得点		3.5	
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯地域係数、重要度係数を考慮した耐震性	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
				2.1.2	⑯	免震・制振性能
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
				2.4.3	⑰	電気設備
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
				2.4.5	⑰	通信・情報設備
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)			得点		3.0
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高3.0m以上 ⑲壁長さ比率0.4 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑木材は県産材を使用	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
				3.1.2	⑲	空間の形状・自由度
	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)			得点		2.5	
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ㉓空地率80%以上 ■敷地外環境対策 (⑳温熱環境悪化の改善) ⑳隣棟間隔指標Rw0.5以上	Q-3	1			⑳	生物環境の保全と創出
		2			㉒	まちなみ景観への配慮
		3	3.2			㉓
	LR-3	2	2.2		⑳	温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営住宅袋井団地B棟	階数	地上5F
建設地	静岡県袋井市青木町5の一部	構造	RC造
用途地域	第一種中高層専用地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023/06/30 予定	評価の実施日	2021年6月17日
敷地面積	4,065㎡	作成者	片山友見
建築面積	666㎡	確認日	
延床面積	2,787㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 「CASBEE静岡2016年版による評価結果」である。 敷地内は、敷地境界からの建物までの離隔距離を十分に確保し、周囲には緑地帯も設け、周辺環境に配慮した。 建物は、階高を出来るだけ高くとり、開放感溢れる空間とした。		その他 0
Q1 室内環境 各住戸部分は区画し、遮音性能を高めている。 外壁天井共に断熱材を充填し至温環境に考慮している。	Q2 サービス性能 バリアフリーを考慮し、どなたでも住みやすい居住空間となるように努めている。 内装も維持管理しやすい素材としている。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地廻りには植栽帯を確保し、隣地からの離隔距離を確保している。
LR1 エネルギー 省エネルギーで評価クリアしている。	LR2 資源・マテリアル 建築資材として、再生砕石を利用し考慮した。	LR3 敷地外環境 緑地の確保、駐車場の確保、その他法令条例に準じた設備としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい